

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	岡山市立竜之口小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	28
児童数	77	76	68	58	73	75	3	430	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「ともに学び合い自分らしさが発揮できる子」 ～一人一人が楽しいと感じる授業づくりを通して～</p> <p>本校の研究は、児童の実態に悩んだところからスタートした。人と関係づくりができにくく自分から関わりを持とうとしない、気持ちの表現が苦手、すぐ投げやりな態度になる、感情のコントロールができにくいなど、精神面・情緒面の問題や、基礎学力が十分に付いていないために学習に対する自信を失っている、学習に対する集中力や根気に欠けるなど、学校全体の傾向としてあり、その対応に追われる毎日であった。</p> <p>そのために、本校では、「大きな夢 とともに かがやけ」の学校教育目標を受けて、研究主題を、「ともに学び 合い自分らしさが発揮できる子」～一人一人が楽しいと感じる授業づくりを通して～と置き、他の人に目が向けられ他とよい関係をつくることができるために、「人を信じ、ともに生きる力」(人間関係力)を育成すること。日常生活に不可欠な力(読み・書き・計算・コミュニケーション力)と前学年までの学習内容、及び、それを基盤としたそれぞれの学年で指導要領に示された学習内容を「基礎・基本」と置き、その定着を図ること(「基礎・基本の定着」)を指導の重点として、算数科を中心に取り組んでいくこととした。</p> <p>しかし、本校の実態として、人間関係力の育成と基礎・基本の定着を図るためには、児童の心、内面への支えなしには難しい現状があり、そこで、学びの部(教科指導)と育ての部(生徒指導)の両面から取り組んでいくこととした。</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・算数(子どもの個々の学力に大きな差が見られるため) (平成15年度岡山市東地区ブロック算数教育研究会発表校)</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ ともに学ぶ楽しさや算数のよさを実感し、伸びようとする子をめざして ～算数的活動と少人数指導・TT指導の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し</p> <p>* 算数的活動や話し合いを通して友達とともに課題を解決していくことで自分や友達の考えのよさを知り、考えを深めたり広めたりしながらよりよい考えを追求することができる。また、友達と一緒に活動するだけでも楽しいが、友達に認められることで意欲的になることができると考える。</p> <p>また、算数的活動を通して、知識・理解の内容、数学的な考え方、表現・技能などについて、有用性、簡潔性、一般性、正確性、能率性、発展性、美しさなどのよさを実感することができる。</p> <p>* とともに学ぶ楽しさやよさを実感することで、友達意識が高まり連帯感が生まれる。友達に自分の考えを分かってもらおうとしたり、友達の考えを分かろうとしたりする。分からないことがある友達に教えようとし</p>
--------	---

たり、よく分かっている友達から学ぼうとしたりする。理解が十分な児童は発展的な学習を求め、不十分な児童は補充学習を求めるようになる。

* 児童の実態をもとにしたより具体的な算数的活動を取り入れた問題解決学習をすることでより算数の概念を実感としてとらえたり、数学的な考え方を身につけたりすることができる。また、必要に応じて少人数指導やTT指導を取り入れることで友達と問題解決に向けた話し合いがしやすくなり、指導者も個に応じた指導ができるようになる。

* 育ての面からは、子どもが意欲を持ち、主体的に学習に取り組んでいくために、「集団づくり」に焦点を当てて研究を進める。学ぶ意欲には、ベースとなるまわり（友達・家庭・地域・教師）からの日々のかかわりが大きく影響する。一人一人が大切にされている、認められているという実感をもつことで、自分のいる集団に目を向け、安心してかかわろうとしたり、自分以外の存在や考えを受け入れ、高めようとするところができる。特に、他の人に目が向けられ、他とよい関係をつくることのできるために「人を信じ、ともに生きる力」（人間関係力）を育成することへの働きかけとして、人間関係力育成のイメージをSTEP1（問題解決のための意志・意欲・目標・考えをもつ - 自尊感情・自己肯定感の育成 - ）STEP2（友だちの存在や考えを受け入れる - 集団づくり、ソーシャル&学習スキルの育成 - ）STEP3（友だちとのかかわりの中で、よりよいものに高める - 学びの共同体、子どもの自主的・実践的活動 - ）のようにとらえた。そして、日々の生活の中では一人一人のもつ課題に寄り添い、今、どこを充実させることがその子にとって必要かということを考え、適切な支援ができるようにする。算数科の授業の中では、それぞれの学習場面でSTEP1～3のどこをねらって支援するかを明らかにしそれを繰り返すことで子ども達がつかんだ人間関係力のきっかけを逃さずに授業の中でも育てることができるよう考える。その中でも一人一人の課題に寄り添い、個への働きかけをすることで、集団の中での学び合いが充実し、一人一人が輝く場とすることができる。

研究の内容・方法

具体的な研究の取り組みとして、算数科で以下の2点を取り上げた。

- (1) 問題解決学習の充実（作業的・体験的な算数的な活動の工夫、及び人間関係力育成のための支援）

	学 習 活 動	教師の支援・指導のポイント
課題をつかむ	<p>問題を知り、課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習っていることと習っていないことに気づく。 ・具体物や半具体物を使って問題場面を知る。 ・問題と似ている体験を話し合ったり、動作化したりして課題をつかむ。 ・条件不備や条件過多の数量等について話し合う。 ・既習と未習を明らかにした上で、学習課題をつかむ。 	<p>単元を貫くような課題を単元のはじめに設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の意識の流れを大切に素材やゲーム、身近な場面を取り上げた問題に心がける。 <p>-----</p> <p>条件不備、条件過多の問題を与え、内容の過不足を補い完成させる。穴埋め問題の形式で考えさせる。ある一定条件を与え、自分で問題を作らせる。</p> <p><u>活動、体験を取り入れた課題設定をする。(人間)</u></p> <p>問題の場面理解を確かなものにし、既習と未習を明らかにした上で、学習課題をつくりやすくする。</p>
見通しをも	<p>結果や解決の方法について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えを見積もったり、式を考えたりする。 ・何を使ったらできそうかなど 	<p>既習の知識・技能、考え方をもとに、答えの予想や解決の方法について見通しをもたせる。</p> <p>個々に見通しをもたせるか、一斉に見通しをもたせるかは、児童の実</p>

	<p>つ の具体的方法を考える。(おはじき、かぞえ棒、線分図、関係図表、実測など)</p>	<p>態や学習内容などから考えるようにする。</p>
<p>自力解決</p>	<p>自分なりの見通しをもとに、自分なりの考えをもつ。 ・算数的活動(具体的な操作や念頭的操作など)をする。 ・多様な考え方を考える。 ・よりよい考え方を探る。 ・発表の準備をする。 ・筋道立てた説明の仕方を考える。</p>	<p>自力解決の十分な時間を保障する。(7分~15分程度) <u>作業的・体験的な算数的活動を工夫し、自力解決をさせる。(人間)</u> <u>個に応じた支援をする。(人間)</u> 考えの進まない児童には、ヒントカードや助言を与える。(T2が個別指導をする。) 考えのもてた児童には、よりよい考え方を探ったりその考え方をしっかり発表できたりするように助言する。</p>
<p>練り上げる</p>	<p>自分の考えを一層明確にする。 ・分かりやすく発表する。 ・自分の考え方をくらべる。 ・それぞれの考え方をくらべる。(違う点・似ている点・よりよい点) ・よさに気づく。 ・よりよい考え方や公式などに練り上げる。</p>	<p><u>発表させる順番について考慮する。(人間)</u> <u>名前カードなどを活用することで、友達の意見と自分の考えをはっきりさせる。(人間)</u> 多様な考えを異同弁別させる。 簡単、的確、明瞭、有用性などから比較・検討させる。 反例(範例)を通して、数学的な感覚を磨かせる。</p>
<p>まとめる</p>	<p>自分の学習課程を振り返る。 ・本時の学習を振り返る。 ・分かったことや思ったことなどを発表したり、ノートにまとめたりする。</p>	<p>学習を振り返り、自分の言葉でまとめができるようにする。(自己評価・自己点検) <u>ただ、めあてに対するまとめを書くだけでなく、友達の意見についてどうだったか、まとめるようにする。(人間)</u> 次時の学習につながるようなまとめをする。 問題から問題へ活用させる。(T2が個別指導する。) 問題から生活へ活用させる。 ----- 評価規準と照らし合わせる。</p>

(2) 効果的な少人数指導・TT指導の工夫(個人差への対応等)

* 基礎・基本の面から

少人数指導については「児童一人一人に、基礎的、基本的な内容を実身に身に付けさせ創造性の基礎を培い、主体的、能動的な児童を育成するためには、児童一人一人の個性(興味・関心や適正及び思考力、判断力、表現力等の能力)を十分とらえ、指導方法を工夫し、個に応じた多様な教育を展開することが不可欠である。その重要な方策がチームティーチングであり、少人数指導の導入である。」(算数科における少人数指導の在り方 県センターH15、2)とある。しかし「単に学習集団の規模を小さくしただけでは、その効果はほとんど期待できない。」(同)とある。

本校では、児童一人一人が学習の効果を上げるためには、少人数を生かした指導法、指導形態を工夫することが不可欠であると考え、そのために、次の内容を工夫しながら取り組みを進めていくこととした。

基礎・基本となる単元の本質的なねらいを的確につかむ

単元に応じた計画を立てる

児童の意欲を引き出すための教材教具の工夫、

一単位時間の授業の展開の工夫、

スキルをどのように取り入れていくか

児童の能力に応じた学習をどのように展開するか。取り組んだ指導形

態等については検証を加えていく。

少人数指導の形態（本校での取り組み）

少人数指導はティームティーチングの一つの型といわれる。TT については、クラスと教師の数で分類する方法と教師の進め方の役割で表す方法で考える。

クラスと教師の数で分類すると

1 クラス 2 教師

2 クラス 2 教師

教師の役割で表す方法として

1 進 1 補型 1 人が授業を進行し、1 人が個別指導で補助する型

2 進型 2 人が授業進行に携わっていく型

2 別 2 進型 1 クラスを分けて 2 グループにして 2 人がそれぞれのグループを受け持ちそれぞれに進めていく型

単元によって TT が少人数指導か固定化して考えるより、児童の実態、単元の流れを見てその中に TT と少人数指導を織り込んでいくことでより個に応じた指導が行われると考えた。

TT・1 教室で全単元を TT で行う。算数のどの単元にもあわせることができる。指導法の改善と工夫に努めていくことが必要。

TT - 少人数・単元の終末を少人数指導で行う。終末のみ、2 教室を使う。単元の始めに共通理解すべき内容があって、学習が進むにつれて理解の差が出てくるもの。更に概念の多い単元に適する。（例）5 年分数の計算など

T 少人数・単元の後半から少人数指導（2 教室）を行う。単元の始めに共通理解すべき内容があり、学習が進むにつれて理解に差の出るものか、別々の課題で選択できるもの。（例）4 年わり算の筆算

少人数 TT・単元の前半を少人数（2 教室）で行う。はじめは課題が違って、後から共通の土台に乗せていく学習が適している。（例）3 年ぼうグラフなど。

少人数 TT・単元の終末を TT 指導で行う。少人数をしっかりとした後で、一緒に学習していこうという指導法である。少ない人数でしっかり学習していくが最後に学習内容を共通練習していく。はじめから少人数なので、興味関心別の課題が適している。（例）4 年三角形の学習

T - 少人数 T・途中で少人数にする。最初の段階で投げかけて、途中で分かれて別々に課題をし、終末で発表しあうなどといった単元の流れがこの学習に適している。（例）3 年かさの学習に適する。最初 dl と出会って、l、ml を課題順序選択学習にしていく。最後にまとめを一緒に行う。

少 T - 少・単元の前半と後半（2 教室）で少人数にする。はじめに調べ学習をして、途中で修正したり共通理解したりする。おわりに課題追求という流れとなる。基本は少人数指導だが、途中で共通理解が「必要」という単元に適する。少人数で始めるとき、何かに差があることが前提と考える。興味関心、理解度など何らかの差を認めると、少人数指導が有効である。（例）4 年角

少人数指導・始めから最後まで少人数指導でやりとおすという指導法。

以上、8 種類の展開過程で授業をとらえる。

少人数指導グループ分けの観点

機械的

課題別（コース別） 理解度別 興味関心別

それぞれの単元について指導計画をたて、学級担任と少人数担当と相談しながら学習を進めていく。

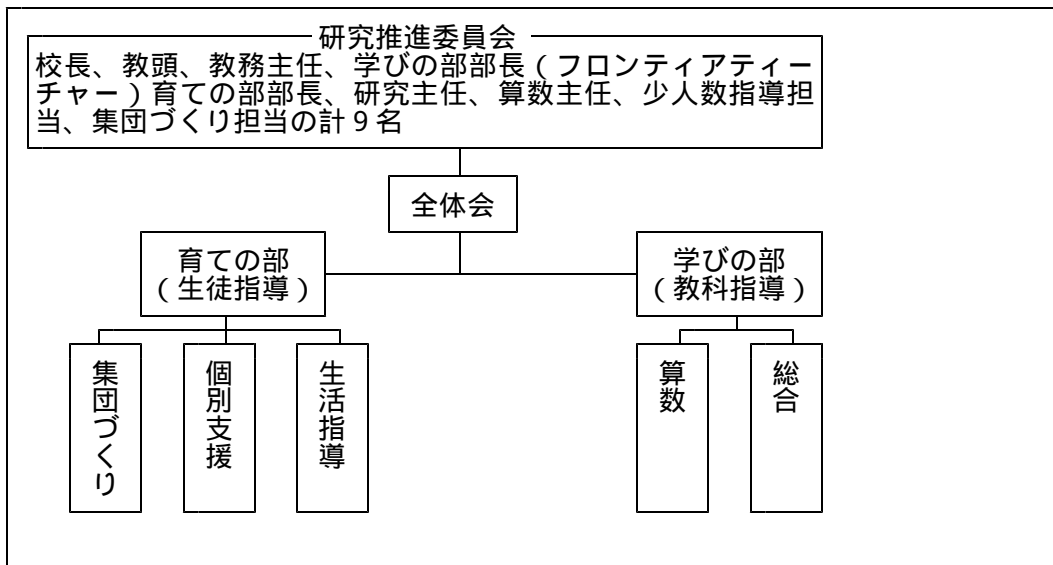
* 人と関わる面から

児童が「学ぼうとする」時、大きく関わるのが友だちとの関わりといえる。学級でない学習集団としての集団作り、友だちとの関わりをどのように育てていくかが課題といえる。一人一人の達成感、充実感や友だちと一緒に解くことでの達成感、充実感を多く味わわせることが必要である。そのために、児童一人一人の理解を深め、一人一人に応じた手立ての工夫に努める。一人一人が自信を持って授業に取り組めるような手立てを工夫し、同時に、指導者同士の連絡を密にし、より細かな指導を心がけていく。

教師が児童を、児童相互に認め合う土壌を作る。
 どんなに小さいことでもがんばっていること、取り組んだことを見逃さずにしっかりと認めよう。
 このことを全職員了解事項として取り組んでいく。

平成16年度	<p>テーマ とともに学ぶ楽しさや算数のよさを実感し、伸びようとする子をめざして ～算数的活動と少人数指導・TT指導の工夫と人間関係力の育成を目指して～</p> <p>研究の見通し 人間関係力の育成を図りながら、算数科において、子供たちの意識の流れに応じたより具体的な算数的活動や指導法・指導体制の工夫改善を行えば、児童の基礎・基本はさらに定着し、学力は一層高まると考える。</p> <p>研究の内容・方法 昨年の研究の成果を生かし、具体的な研究の取り組みとして以下の4点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善（少人数指導・TT指導の工夫） ○ 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発（児童の意識の流れに応じた単元構想の工夫） ○ 児童の自己評価を生かした指導の改善（自己評価等） ○ とともに学ぶ楽しさを実感できる授業づくり（人間関係力の向上）
--------	---

(3) 研究体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

少人数指導・TT指導について
 自分の力を伸ばすためにコースを選択するという意識で学習に取り組めてきた。
 機械的な少人数指導、興味関心に分けた少人数指導など単元や児童の実態にあった指導形態に取り組めるようになった。
 診断テストや振り返りカード、授業のまとめなどで児童が自分の学習を振り返る機会をもつようになった。
 家庭への連絡、授業公開などをおこなってきたので、保護者の理解が得られてきている。

平成15年度6月・1月の学力検査(算数)
分析結果(低・中・高学年の様子)

		6月		1月			
2 年	男	平均値	51.8056	53.5556	学校自己評価(児童アンケート) より とてもそう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わ ない ○学校は楽しい 52% 35 % 8% 5% ○勉強を頑張っていてよく分かる 53% 39% 7% 1%		
		N	36	36			
		標準偏差	11.8631	9.6760			
	女	平均値	52.4737	52.7632			
		N	38	38			
		標準偏差	8.7819	11.0489			
合計	平均値	52.1486	53.1486				
	N	74	74				
	標準偏差	10.3284	10.3403				
4 年	男	平均値	51.3103	52.5172	学校自己評価(保護者アンケート) より とてもそう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わ ない ○学校の教育方針に共感している 36% 60% 1% 3% ○子どもは学校へ行くのを楽しみに している 65% 32% 2% 1% ○子どもは授業が楽しく分かりやす いと思っている 37% 55% 6% 2% ○学校はよりよい人間関係が作れる ように取り組んでいる 31% 59% 5% 5%		
		N	29	29			
		標準偏差	10.6941	10.8418			
	女	平均値	53.0000	55.5185			
		N	27	27			
		標準偏差	9.7389	8.9888			
合計	平均値	52.1250	53.9643				
	N	56	56				
	標準偏差	10.1874	10.0163				
6 年	男	平均値	46.0769	49.6923			
		N	39	39			
		標準偏差	10.5715	11.3512			
	女	平均値	49.7778	50.2778			
		N	36	36			
		標準偏差	10.4009	13.2355			
合計	平均値	47.8533	49.9733				
	N	75	75				
	標準偏差	10.5839	12.2110				

9月の文部科学省の「学力向上フロンティア事業にかかわる調査」や学校自己評価の児童アンケート、保護者アンケート、1月の学力検査にも表れているように、学校が楽しい、授業が楽しいと感じている児童が増え、学力の向上も見られ、学校に対する保護者の見方もずいぶんと変わってきた。
これまで不登校や長期欠席の児童も3年前には、400名余りの児童の中で20名もの数に上っていたが、本年度は12月末現在、実質不登校1名という状態にまで改善されている。学校が、教師が一丸となって取り組めば、児童や保護者は変わってくる。それを実感した1年であった。

2. 今後の課題

児童の生活が落ち着き、人間関係においても穏やかさが増し、学習面でも与えられた課題には取り組めるようになってきたが、自ら課題を見つけて取り組むということはまだまだ十分とは言えない。また、保護者の見方が変わってきたとはいえ、子どもを支える保護者の価値観も千差万別で、学校の取り組みが家庭にまで十分浸透しているとは言い難い現状がある。
本校の現状をみたとき、児童の人間関係や生活の基礎基本を身につけさせるためにも、保護者の支えは不可欠である。保護者や地域の人々への理解と協力を得る働きかけを続けるとともに、より目標を具体化し、授業レベルのさらなる向上を図り、生きる力の基となる学力の向上を進めていきたいと考えている。

学力等把握のための学校としての取組

- 平成15年6月
教研式標準学力検査・全国標準
(前学年の内容で2年から6年の全クラス算数実施)
TCP(学校と家庭をつなぐための調査、性格・適正検査)
生活調査(中国心理診断センター制作)
- 平成15年8月
6月実施の学力検査・生活調査の分析・研修(講師:中国心理診断センター所長)
- 平成16年1月
教研式標準学力検査・全国標準(1年から6年の全クラス算数実施)
- 平成16年3月
1月実施の学力検査・生活調査の分析・研修(講師:中国心理診断センター所長)
- 平成16年6月
TCP(学校と家庭をつなぐための調査、性格・適正検査)
生活調査(中国心理診断センター制作)
- 平成17年1月
教研式標準学力検査・全国標準(1年から6年の全クラス算数実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年度研究発表会(岡山市東地区ブロック算数教育研究会と兼ねる)
平成16年1月20日(火)
参加者:約130名
(岡山市内幼・小・中学校、赤磐郡、倉敷市、岡山教育事務所管内フロンティア校、及び本校職員を含む)
- 平成16年度研究発表会
平成16年10月21日(木)実施予定
- ホームページ <http://www.city-okayama.ed.jp/~tatus/>にて
平成15年度の本校の取り組み、及び研究発表会の内容を公開中

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7~12学級
 13~18学級 19~24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無